

シラスカラー絵の具の 使い方マニュアル

～絵の具の溶き方、塗り方、描き方～



作成：第43回生光展事務局（宗教法人「生長の家」広報・クロスメディア部広報課）

1. はじめに -----



シラスカラーは、マグマセラミック（細かい軽石や火山灰）が主原料です。それに、定着材として石膏を、顔料として鉬石を混ぜて絵の具が作られています。ですから、天然素材 100% の水彩絵の具です。有害金属、有機溶剤、防腐剤、合成樹脂を一切含まないため、環境にも人体にも安全に使用と言えます。絵の具を手にとっていただければ分かりますが、通常の水彩絵の具に比べると派手さはなく、日本画の岩絵の具に似た落ち着いた色合いが特徴です。

しかも、水彩絵の具には珍しく粉末状で、初めて使う方は少し戸惑われるかも知れません。そのため、絵の具の取り扱いのコツを記載したマニュアルを作成することを考えました。「習うより慣れよ」とのことわざ通り、まずは、このマニュアルを参考に、絵の具を水で溶いて、混ぜて、描いてみてください。基本色は 10 色ですので、2、3 色の絵の具をパレット（皿）の上で混ぜることにより、色数を増やすことができます。

手始めに、お手元の画用紙に、試し書きのつもりで、どんな色で描けるのか、描き心地はどうなのかを知るために、単色や混色で描いてみることをお勧めします。きっとこの新しい絵の具——シラスカラーが新鮮な気分させてくれることでしょう。

2. シラスカラーの特色 -----



シラスカラーは、水彩絵の具の中では、ポスターカラーやガッシュ（グワッシュ、Gouache）などと同様に「不透明水彩」のグループに属します。不透明水彩というのは、ある色を塗った後、別の色を上から重ねて塗ると下の絵の具が見えなくなる、すなわち、上から塗った絵の具で下の色が覆われて（隠れて）しまう感じになります。ただし、絵の具を溶く際の水の分量で変わりますので、絵の具を溶く水分量を多くすると、透明水彩のような使い方もある程度は可能です。透明水彩というのは、よくスケッチなどで使われる画材店で販売されている一般的な水彩絵の具のことです。淡い透明感のある絵を描きたい時にふさわしい絵の具で、「マッチ絵の具」などがそれに該当します。

3. 絵の具の取り扱い -----

(1) 溶き方、混ぜ方



■ 単色の場合

使いたい絵の具を少量、パレット（皿）の上に出します。水を含ませた筆で絵の具を溶きます。絵の具の粒子（つぶつぶ）がなくなるくらい、水を少しずつ足しながら筆先で円を描くように混ぜるのが基本です（写真左）。絵の具の粉は一度にたくさんの量を入れず、少しずつ足していくのがコツ。絵の具を水で溶く際には、スポイトやスプーン（写真右）を使って水を足すと便利です。





■ 混色の場合

混ぜたい絵の具（2色）の粉をパレット（皿）の上に少し離して出します。三角形になる位置で、円を描くように2色を、水を含ませた筆で混ぜ合わせて溶きます（写真）。※色が濁らないように、混ぜるのは2、3色以内とします。ブラック（黒）を混ぜると彩度が落ちますので、混色の際には、黒の分量に気をつけましょう。



ポイント 筆だけで絵の具が混ざりにくいと感じた時は……

指先を使って粉をすりつぶすように混ぜると、粒状の絵の具がなめらかになって、よく混ざります。

〈シラスカラーによる混色の例〉

2種類の絵の具を混ぜることで、色のバリエーションが生まれます。少量ずつを混ぜ合わせて色の変化を確認しながら進めると、好みの色を出しやすいでしょう。

●黄緑 → チタニウムイエロー + オキサイドクロムグリーン

●水色 → コバルトブルー + ホワイト

●紫色 → マルスバイオレット + コバルトブルー
インディアンレッド + コバルトブルー

※コバルトブルーを少なくすれば赤紫に、多くすれば青紫になります

●クリーム色 → イエローオーカー + ホワイト

●オレンジ色 → チタニウムイエロー + テラローサ（赤）

●こげ茶色 → ローシェンナ（明るい茶色） + ブラック



(2) 基本的な塗り方



■薄く溶いて、塗り重ねる

水彩絵の具の基本は、最初から濃い色を塗らず、淡い色から塗り重ねることです。そうすると深みのある色を表現することができます。シラスカラーの場合も同様で、淡い色から濃い色へという順番で絵の具を塗り、乾いたら重ねていくと良いでしょう。あまり水分を含まない絵の具を塗ると、乾いてからひび割れることもありますのでご注意ください。

(3) 描き方

シラスカラーの絵の具に付いている説明書「Shirasu Color シラスカラーの使い方」には、専用の「漆喰パネル」に描く方法が記載されていますので、ここでは、通常の水彩紙（画用紙）を使う際の描き方について説明します。

紙に描く場合は、鉛筆などで下書きをして、色を塗っていきます。基本的には、「(2) 基本的な塗り方」で説明した通り、「淡い色から濃い色へ」の順で色を塗り重ねます。全体に絵の具の密度が一定になるように、重ねる回数をおおむね合わせると良いでしょう。

